

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675200127号
法人名	株式会社JOY
事業所名	「いこいの里」花いちもんめ
所在地	始良市加治木町木田4888-4 (電話) 0995-62-2983
自己評価作成日	平成25年9月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 一、日々の生活の中で明るくいつも美しくを目標にしていること。
身支度を整え、各居室や共有スペースを清潔に保つよう心がけている。
- 二、朝日(日の出)を眺め、日本の滝百選にも選ばれた龍門滝を眺めながら地域の方々との交流を持ち楽しめる環境にある。
職員が散歩や買い物などに同行して外出の機会づくりをしている。
- 三、地域住民の大人から子供までいつでも利用できるブッククロージングを毎週土曜日にオープンしている。
- 四、同グループ等の行事への参加を行い、地域・他者との交流機会が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた閑静な住宅街に建てられているグループホームである。協力医療機関に隣接しており、24時間体制で適切な緊急時の対応がなされ、また、上階は職員寮となっていることから安全面での協力関係も築かれている。1階のグループホームは民家改造型のため、広い縁側や襖や障子、床の間といった民家の部分そのまま残され、各居室、それぞれに個性があり家庭的で落ち着いた雰囲気である。また、広い縁側にはソファが置かれ、利用者は龍門の滝や庭を眺めながらゆっくりとした時間を過ごしている。

平成12年に開設され利用者も高齢化が進み、加齢に伴う重度化を現実として受け止め、利用者の日常生活の安全面に配慮して職員体制にもゆとりを持たせ、医療機関と連携を図りながらホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。

食事介助の必要な利用者も多く、可能な限り、固形の状態で食べられるように歯科医の助言をもらいながら口腔ケアに力を入れて「おいしい」という笑顔が見られるように雰囲気作りや献立、食事形態を工夫している。

運営推進会議に毎回多数の家族の参加が得られており、さまざまな意見や要望などが出て有意義な会議となっている。職員の離職が少なく、利用者との馴染みの関係が築かれて穏やかな日常生活が営まれているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	GHの在り方、当事業所の理念を念頭に、地域住民の協力を頂きながら生きがいのある生活を提供している。	法人の理念と地域密着型サービスとしての意義を踏まえたグループホーム独自の理念を作成している。理念は職員が目につきやすいように玄関・ホール・廊下に掲示して理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	苑外散歩や買い物の活動を通じて近隣住民との挨拶、会話をされる関係が出来ている。	自治会に加入しており、回覧板等で地域の情報を得ている。次年度より総会等への参加も検討している。地域のボランティアグループ・看護学校生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	民生委員および地域の方々との連携を取りながら、独居の方やご家族様から認知症についての相談を頂き、サポーターとして地域と交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題を挙げ、意見、助言を頂き改善策を話し合い、議事録をまとめて職員全員で共有しサービス向上に取り組んでいる。	自治会長・家族・職員、行政等の参加を得て2カ月に1回開催している。家族は代表を決めずに毎回全員に参加の呼びかけを行い、多数の参加を得ている。ヒヤリハット事例及び対策の報告やホームの状況報告などを行い、家族からも意見や要望を聞き出しサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへ事業所の実情を伝え、また市町村との連携を密にし情報を頂いている。	運営推進会議を通じてホームの実情を伝えており、日頃より連携を図り協力関係を築くように努めている。また、生活保護受給者もおり、担当者との連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の目標を提示して「身体拘束廃止」を常々提示している。又、身体拘束についてはマニュアルを作成し全員で共有している。施錠については時間帯および事故等を考えて排除する事は難しく、家族の理解も頂いている。	いかなる場合も身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおり、身体拘束廃止委員会を設置して瀬回に話し合いを行っている。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な暮らしを支援している。外出傾向の利用者には職員がさりげなく着いて行き見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施して勉強会を通じて意識の向上と情報の共有によって身体拘束や虐待を行われないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料研修や関連事業所との勉強会に参加し成年後見制度について学ぶ機会を持っている。現在後見人制度を利用される利用者も入所されており、後見人の司法書士のアドバイスを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に読み合わせを行い、家族の理解・承諾をを頂いている。又、運営会議等では行政を交えて意見交換をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営上必要な事は早めに家族に発信して理解を頂いている。苦情相談窓口も設置している。また面会時に家族へ何か要望がないか確認している。	運営推進会議に毎回多数の家族の参加があり、意見・要望を聞き出してサービス向上に活かしている。また、日常の面会時や電話連絡の際に管理者・職員が状況報告や話をするように努めている。家族向けアンケートも実施しており、家族が意見・要望を表しやすい機会を瀬回に設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の勉強会、スタッフの意見交換を行いスタッフが気軽に意見を出せるようにし業務に反映させている。	毎月のミーティングで意見交換や話し合いを行っている。離職が少なく勤続年数の長い職員が多いため、活発な意見交換などが行われ、サービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者は職員の意見を聞き勤務状況を把握して本部に報告、連絡を取りながら現場の環境作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修が高いケアにつながる事を理解し内・外部研修への参加を実施し情報・知識を共有出来るように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会への加入によって情報の収集や研修会の参加を実施し情報の交換に活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人を尊重して家族と多くの情報交流を図り、入所後については個別性を重視する為、本人の不安、悩み等を傾聴し信頼関係を築ける等に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、電話等で常にコミュニケーションを取らせて頂き、ご家族の悩みや不安を聞く事が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、利用者のニーズに合わせたケア、サービス提供を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前に本人・家族より以前の生活状況を聞き取り日頃の生活習慣を把握し、コミュニケーションを取りながら、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、日々の状況や写真を新聞にして作成し、家族や行政へ配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や近隣での花見会、また事業所関連の夏祭り、合同運動会などに参加して、多くの知人、友人との交流が図れるように支援している。	重度化している利用者が多く、なかなか自分から思いや希望を表せないが、家族・友人・知人に訪問を積極的にお願いして関係が途切れないように支援に努めている。また、少数ではあるが入居前からの行きつけの美容室を継続している利用者もいる	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活歴、趣味等を把握して、職員が間に入り自発的な交流を持てるように配慮して良好な関係が保たれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、本人の状態等を面会を通じて把握し、家族にも連絡をとり経過をフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを図りながら思いを聞き取り、本人の希望や意向に沿った支援を行っている。又、困難な場合はスタッフ間で話し合い、問題解決に努めている。	重度化している利用者が多く、なかなか思いや意向を表してもらえないが、日常の会話や言動、表情、担当者による気づきや変化などの記録で職員間の情報の共有を図り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、これまでの生活歴、社会背景等を家族、本人より聞き取り把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神状態、身体状態を把握した上で一人ひとりの残存機能に合わせた生活が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話し合いを持ち、本人・ご家族の思いを聞き現状に合ったケアを実施出来るよう介護計画を作成している。	本人・家族の意見や要望を聞いて散歩や買い物同行をサービスに取り入れて継続できるように支援している利用者もいる。モニタリングを3カ月ごとに行って担当者を中心として職員間で見直しの必要性を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し職員全体で利用者の状況を把握・共有して介護計画に沿ったケアの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には福祉施設と保育園・在宅グループが多くあり自治会の高齢者との交流で笑顔が出る環境作りをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは日々情報交換、報告を行い、家族にも説明して健康保持に努めている。緊急時の対応についても協力病院との連携を図っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時の対応や搬送先等は入居時に説明し同意を得ている。また、ホームに看護師の資格を持った職員が3名おり、緊急時の対応や日常の健康管理など家族・職員の安心にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の健康状態について介護スタッフと看護職員が密に情報交換を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に看護サマリーにより入院までにの経過・病歴・内服薬緊急連絡等の情報を作成し情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院との連携で365日24時間医療面で対応出来ること。重度や終末期ケアについては入所前に家族へ説明し理解を頂いている。	重度化や終末期に向けたホームの方針は入居時に説明して同意書も作成している。入居後は身体状況に応じて主治医の判断の下、家族と方向性を話し合い、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。緊急時の対応については全職員が消防署主催の救命救急の講座を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、救急手当等については始良市の消防局の救急救命の研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力病院と一緒に防災訓練を行うとともに、当事業所でも独自に訓練を行っている。各居室にもスロープを設置して、全居室にスプリンクラーも設置して、家族、自治会より評価を頂いている。</p>	<p>年2回、昼夜間想定で隣接する協力医療機関と合同の避難訓練を行っている。他にも通報訓練を兼ねた自主訓練も行っている。スプリンクラーと防火扉も設置され上階の職員寮とは協力体制が話し合われている。ホームには4か所のスロープが設置されて車いすでも避難誘導がスムーズに出来るように対策がとられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは職員への意識付けを行い個人を尊重した利用者が分りやすい言葉で言えるように意識付けをしている。プライバシーの保護については日々取り組んで実施している。	理念に「個人の尊厳を尊重して」と謳っており、なれあいによる言葉かけなど特に注意している。また、日常のミーティング時に機会を捉えては話をしたり、外部から講師を招いて法人合同で接遇についての勉強会も行うなど職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの方が年々自己決定が難しくなっているが、コミュニケーションを取ることにより利用者の気持ちに沿った自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況・精神状態を把握しながら、本人の希望に添った介護支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的にボランティアの方により髪のカットをして、行事参加時には化粧等を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時は嗜好調査を行い、本人の意向に沿った食事提供を行っている。又、食事前には嚥下体操や音楽を流して落ち着いた雰囲気ですぐに食事を喜んで頂いている。	重度化している利用者が多いが、歯科医の助言をもらいながら口腔ケアに力を入れて出来るだけ固形で食べられるように支援している。また、食事介助が必要な利用者がほとんどだが、食べることが利用者が一番の楽しみと捉え「おいしい」の一言がもらえるように雰囲気作りや献立なども工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事・水分摂取をチェック表を作成し個別で状態が分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨き・うがい・義歯洗浄の実施、協力病院の歯科による定期的な受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄・水分表は毎日記録してオムツは家族の負担も少なくなるよう使用枚数軽減に努めている。また、排尿パターンを把握し適宜にトイレ誘導を行っている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、日中は全員トイレ誘導を行ってトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無の確認を行い食事内容、水分摂取量の確認と腹部マッサージ等を行っている。又繊維性のある食材を取り入れ便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間は設定した手順で行っているが、利用者の体調・精神面に気配りをしながら、本人に合った入浴方法を行っている。入浴出来ない場合は足浴、清拭等を実施している。	冬場は週2回、夏場は週3回を目安にしているが、本人の希望や失禁、身体状況に応じて柔軟に支援している。身体状況に応じて介助の職員を二人・三人体制にし、安全に入浴できるように職員体制にゆとりを持たせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、安眠や休息が出来る環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、処方内容を看護師が把握しスタッフへ情報を伝えている。内服の変更および臨時処方に対しては主治医の指示のもと確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、茶碗洗い、洗濯物干し(たたみ)等を、利用者の能力に応じてして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等に行くことなどによって、気分転換を図っている。家族の面会時に、家族と散策されることもある。また苑外レクも行っている。	日常的には散歩や庭での外気浴などで気分転換を図っている。また、法人の施設での催し物見学や気候のいい時期にはすぐ近くの龍門の滝の周辺を散策して季節を感じられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理については預かり金という形で管理しており。購入希望時は家族の了解を頂き判断している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の家族には、電話等で近況報告をしたり、直接ご本人と会話され安心されている。いつでも連絡が出来る環境に配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは全員のくつろぎの場として広く季節ごとの花や季節行事の飾りを展示して季節感や生活感を取り入れて心地良く過ごして頂けるように工夫している。</p>	<p>共用空間は広く、食事のテーブルとソファが置かれたくつろぎの空間に分かれ、メリハリのある生活が送れるように配慮されている。民家改造型のため、庭に面して広い縁側があり、ソファが置かれて龍門の滝を眺めながら癒しの時間を過ごすことができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル席、ソファ、居室などで、それぞれお好きな所で過ごせるよう配慮を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に活用されていた家具や道具を使用されたりして利用者が安心して過ごせるように環境整備に努めている。	民家改造型のため、同じ作りの居室がなく襖や障子、床の間、家具などでそれぞれ個性的で家庭的な雰囲気の居室となっている。持ち込みはさほど多くはないが家族の写真や本人のこだわりの物品などで落ち着いて生活出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入所前、入所後の生活パターンの周知、掲示物等の活用、職員による見守りや声かけをすることにより安心して生活を送ることができるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない